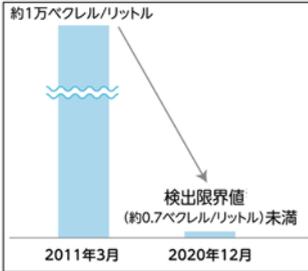
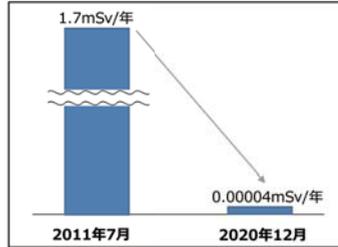


■ 周辺海域（南放水口付近）の  
海水の放射能濃度（セシウム137）



■ 1～4号機原子炉建屋からの放射性物質  
（セシウム）による敷地境界における年  
間被ばく線量評価



出典：資源エネルギー庁「廃炉の大切な話2021」より作成

■ 耐震、耐津波への対策

**緊急時の電源確保**  
電源喪失時に備え、電源を多様化し、「電源車」・  
「ガスタービン車」なども用意しています。緊急時  
には、この車から注水設備に電気を送ります。



注水訓練の様子

電源車

消防車

津波が到達しない海抜  
高台エリアに電源車等  
のバックアップ電源や、  
消防車等の注水手段を  
用意しています。



防潮堤(出典：東京電力HPより)



作業中は、作業現場における放射線量の変動を監視していると同時に、発電所の敷地境界上でも、水と大気の監視を常に行っています。万が一、空間線量率やダストの放射性物質濃度が異常に上昇した場合に備えて、直ちに通報される体制が整備されています。

耐震、耐津波への対策として、東日本大震災級の地震が起こったとしても、重要な建物は倒壊しないことがコンピューター解析により確認されています。また、千島海溝津波に備えた防潮堤が完成しました（2020年9月）。さらに高い日本海溝津波に備えた対策を検討しています。また、万が一に備えて、建屋に津波が侵入しないよう、建屋開口部の閉塞工事を進めると共に、津波が到達しない高台のエリアに電源車等のバックアップ電源や、消防車等の注水手段を用意しています。

本資料への収録日：2018年2月28日

改訂日：2022年3月31日